

ウォーキングクラブ 4月定例会・苗木城跡と城下町散策

実施日：2023.04.20



天気にもまれて笑顔のウォーキングクラブの元気な皆さん

国指定史跡 苗木城跡
苗木城は苗木遠山氏により戦国時代に築城されました。遠山氏は武田氏と縁類関係を結び勢力を広げますが、本能寺の変の後、森氏に城を逐われ、徳川氏に身を寄せ、関ヶ原の戦いの前に家康の指示で苗木城を取り戻しました。この功績により一万五百二十一石となり、以降明治四年の廢城になるまで二百七十年、十二代に渡り遠山氏が治めました。

案内ガイドより

当日は雲一つ無い快晴で風も無く気分爽快のウォーキング日和になりました。JR金山駅改札口前に女性9名、男性4名の13名が参加。8時25分発の快速中津川行きに乗り、ラッシュアワーで大変な混み様でしたが、大曾根駅で随分降りられて座席を全員確保する事ができました。

中津川に9時46分に到着。北恵那バスに10時05分に乗り、苗木バス停に10時17分に下車し、公共交通機関利用で2時間程の長距離移動になりました。この企画は以前より会員からの要望があり、コロナ禍から解放されて、漸(ようやく)3年振りの実施になりました。

県道の苗木バス停を左折して、我々だけの貸切状態の城下町は、格子連子の長屋門や古民家の街並みを賞(め)でながら城に向かって南に向かいます。苗木城跡への道は道標パネルが要所にあり、迷う事も無く誘導されて枡形に至りました。枡形は敵からの進入を阻むための鍵の手に直角に折れた道です。各家の前庭と側溝の間の花壇にはツツジやハナズオウ等の春の草花が見事に開花し、手入れの行き届いた庭木を眺めながら、心地良いウグイスの声を聞き、ゆ

ったりとしながらの城下町散策です。

やがて城下町の中程で家老のお屋敷に誘導されて、庭先に入り古民家を手入れされている若いご夫婦に屋敷やら庭の木々の説明をお聞きし、改めて苗木城の歴史を幾らかでも肌で感じ実感しました。

高齢者にはゆっくり流れる時間が心地良く、タイムスリップして歴史の変遷を知る事ができました。このお屋敷も現代の若いセンスと調和した改築工事によりお洒落な和風レストランに模様替えするのでしょうか？

また、庭の高木で、葉っぱに字が書ける珍しいタラヨウ(多羅葉)の説明をお聞きしました。

ご夫婦の足元には1歳にも満たない男の子の仕草とあどけなさ可愛さに奥様方はかつての母性本能がよみ還ったのか、感嘆し慈しみを感じられた様です。



皆さん母性本能が芽生え笑顔で「可愛いね！」



恵那山ビューポイントの天守台で全方位の展望に感嘆



手前は木曽川、右は恵那山、左は南沢山

少し心がほっこりして、家老屋敷を後にして、苗木遠山資料館に至ります。希望者は見学する事になり、二手に分かれてパスの方と既に見学された方は苗木城に向かいます。

やがて自然のままの花崗岩の巨石を生かし取込んだ石垣に目を見張り感嘆しました。

時代の変遷が偲ばれる野積石も時代が下れば成型された石垣になり、打込接ぎ・切込接ぎ・谷積み等の技術が向上し石垣の発達過程を考えると大変興味が湧き、改めて関心を持ちました。

やがて、息を切らせながらも全員、天守台に登り全方位の展望に感嘆し感動しました。

東南の方向には手前に木曽川に架かる玉蔵大橋を俯瞰し、その先は中津川市街を眺め、その先にはお釜を伏せた様な百名山の恵那山は大きく存在感があります。南西面には木曽川に架かる城山大橋を俯瞰して中津川と恵那の山陵が幾重にも横たわっています。西北面には茅葺屋根を思わせる端正な笠置山を眺める事ができました。

北東面には馬籠妻籠などの木曽街道の山並みの先には中央アルプスを春霞を通して僅かに眺める事ができました。

全方位を眺め充分堪能して天守台を後に馬洗い岩の巨石に度肝を抜かれ、天守台と懸崖造りの軸組に驚嘆して三の丸に下降しました。三々五々木陰のベンチでのんびりランチタイムで至福の時を過ごす事ができました。

皆さんにお集まりいただき、四十八曲がりを下りる前に三の丸のベンチで何時もの様に記念撮影をしました。下りとは言え、天守台から木曽川水面までの比高差は170mもあります。

念のため足腰に余り負担を掛けない様に事前にストック持参の連絡を、はがき案内しています。

砂のザレ場は車石でスリップ転倒をしない様に皆さん緊張しながら慎重に足を運びます。

幸い急激な下りは無くて緩い勾配なので安心して下降する事ができました。木曽川の堤みのアス道に合流して上流に向かいます。

途中でリニア新幹線の大手ジェネコンの木曽川を渡る橋脚建設工事現場に遭遇。中津川には岐阜県の駅と車両基地が計画されており、苗木城跡と城下町を避けてトンネルとし、木曽川は橋梁で渡る路線計画の様です。

工事現場を過ぎてしばらく先に昭和53年に廃止した北恵那鉄道の木曽川を渡る廃線鉄橋に遭遇。時代の新旧の変遷を知ることになり過去と未来の交通機関の時代の移り変わりを2027年には真近に見ることができるのでしょうか。

玉渡大橋の橋桁を下から仰ぎ見ながら、潜り抜けて坂道を上り県道に合流して玉渡大橋を渡ります。

徒歩距離も長くなり脚も重くなり疲れも出て、口数も減り、かなり草臥れかけながら中津川駅に到着です。観光会館で暫く小休止。JR時刻を確認し、時間に追われながらも、駅前の和菓子の老舗で栗きんとんのお土産を購入される方も見えました。夕飯のお茶で、今日の話をご家族にお話しされる時は、楽しかった記憶を思い出すのも一興です。ところで幸い電車の時間を待つ事もなく14時17分の快速に乗車し全員無事に帰宅する事ができました。

因みに我が家に辿り着き、スマホの歩行記録は15,000歩、距離は10.3kmでした。



北恵那鉄道廃線鉄橋はレトロ調の石積橋脚